「熊本地震緊急対策復興支援」事業

被災地の実状を把握している人々を後方支援

2016年4月に発生した熊本地震は、国内最大級となる震度7が2回も観測され、以後も余震が発生した。AJOSCでは一刻も早い支援が必要との判断から、熊本地震の緊急復興支援として、昨年7月、復興支援活動に実績がある「公益財団法人さわやか福祉財団」に200万円の義援金を寄託した。

被災地への後方支援拠点として設営された「熊本地震復興支援ベースキャンプ日之影」

各地から送られた支援物資の仕分け、発送などを行ってる

東日本大震災における被災地支援の活動を生かし現地での活動を後方支援

東日本大震災から5年が経過し、日本中が悲しみや防災の大切さへの思いを新たにしてから間もない昨年4月、全く予想していなかった熊本を震源に大きな地震が襲った。震災関連死を含め、死者225名、負傷者2,753名、避難者は最大時で18万人を超え（2017年4月13日現在）、熊本県や大分県を中心に甚大な被害が出た。「公益財団法人さわやか福祉財団」では、被災地域の復旧・復興が少しでも早く進むよう、ただちに災害支援募金活動に着手するとともに、現地の復興支援に乗り出した。

「新しいふれあい社会の創造を理念に、財団と共に活動を広げている協力者、『さわやかインストラクター』が、全国で149名（平成29年4月1日現在）います。この度の熊本地震では九州で活動しているさわやかインストラクターが、被災地の外にベースキャンプを立ち上げ、被災地へ人や物資などの緊急支援に取り組むとの連絡があり、震災まもなくその活動を後方支援することにしました。」と、同財団事務局長の村田秀一さんは語る。

同財団では地震発生直後から被災地の方々のために何が出来るか、現地のさわやかインストラクターや関係者の方々に状況を確認しながら検討を行った。東日本大震災での経験も踏まえ、同財団は緊急の支援活動を専門的に行える組織ではなく、緊急支援時期以降における絆づくり、コミュニティ再生など、ふれあい助け合いづくりを得意としている。そこで現地のさわやかインストラクターやその方々が中心となる現地での支援団体を通じての情報収集と後方支援に努めた。まず財団ホームページや広報誌を通じて義援金の募集を始め、並行して財団独自の義援金も拠出し、現地に簡易トイレや災害マルチポンチョを送付するなど緊急支援を行った。そして全国からの集まった義援金を加え、現地での支援団体に資金を提供し本格的な活動を進めてきた。

募金は2017年3月31日現在確認分で552万8,218円が集まったが、この中には、昨年7月21日に開催された「平成28年度助成金贈呈式」においてAJOSCから熊本地震緊急対策復興支援の義援金として同財団に寄託された200万円も含まれている。

2つの復興支援ベースキャンプにニーズに応じて資金や物資を提供

さわやか福祉財団がその活動を支援することにしたのは、被災地への後方支援拠点として宮崎県日之影町に設営された、「NPO 法人みんなのくらしターミナル」が立ち上げた「熊本地震復興支援ベースキャンプ日之影」と、熊本県南阿蘇村を支援するために大分県竹田市の社会福祉協議会が中心になって設営した「南阿蘇支援ボランティア竹田ベースキャンプ」である。

ベースキャンプ日之影は被災地の西原村、南阿蘇村、阿蘇市（いずれも熊本県）へ車で約1時間半のところにある。みんなのくらしターミナル代表の初鹿野聡さんは同財団のパートナーとして地域で活動をする「さわやかインストラクター」の1人。初鹿野さんたちは南阿蘇村で活動している熊本県のさわやかインストラクターの木下眞理子さんに簡易トイレなどの支援物資を届けたほか、同財団が支援した600着の災害マルチポンチョを渡し、また主に西原村での瓦礫の処理などに宮崎県や宮崎新聞の協力も得て宮崎県内でのボランティアを募集し、ベースキャンプ日之影からボランティアを送るなどの活動を行った。

竹田ベースキャンプの運営には、福岡県さわやかインストラクターの阿部かおりさん、佐賀県さわやかインストラクターの江口陽介さんが参加している。阿部さんからの依頼に基づき、同財団では竹田市に災害マルチポンチョ1,000着を送った。ポンチョは車中泊の被災者を中心に手渡しながら個別のニーズ把握に活用された。ベースキャンプでは、ボランティアの受け入れや、バスによる現地へのボランティア派遣活動など様々な支援活動を社会福祉協議会が中心となって精力的に行った。

「地震発生から1年が経過し、確かに緊急的な支援は収束しましたが、これから被災者の心のケアやコミュニティ再興などの支援が必要な段階になる。今後の活動も重要です」と、村田さんは今後の活動を語ってくれた。

防寒や雨具としてニーズが高かった災害マルチポンチョ

ボランティアの受け入れなどを行っている「南阿蘇支援ボランティア竹田ベースキャンプ」

寄託団体: 公益財団法人さわやか福祉財団 http://www.sawayakazaidan.or.jp

地域での助け合い社会の仕組みづくりをお手伝いしたい

貴重なご支援に感謝しております。活動当初の緊急を要する時点で支援をいただき、大変助かりました。現地のことは現地の人が一番よくわかっているということで、今回のような支援の形になりました。南海トラフ地震も想定されるなか、迅速で効果的な復興支援活動をするためにも、助け合い社会を構築する努力を続けたいと思います。

公益財団法人さわやか福祉財団
事務局長　村田秀一さん